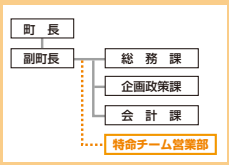
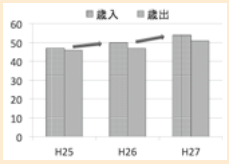
いいじまち
議会だより

第75号 平成28年10月15日
発行：長野県飯島町議会

P3
あれどうなった
町営業部を行政内部組織に
ひとこと広場
議員研修報告



P4〜6
9月定例会　**決算審議**
地方創生や年度途中の町長交代の中円滑な大型事業実施を評価する結論に。



P7
江藤教授による議員研修
「重い権限の自覚を!」

P8
総務産業委員会　決算審査
職員定数・処遇を議論
大型補正や60周年事業などを支えた職員努力を評価する一方、きめ細かい予算管理を求める意見も。

P9
総務産業委員会
商工会と懇談
バイパスからの誘客や数々の事業支援要望。

P10
社会文教委員会　決算審査
臨時嘱託職員の処遇改善を
未満児保育・引きこもり対策・学芸員など、人材不足の実情が浮き彫りに。

P11
社会文教委員会 現場調査
文化館を視察
強化された吊天井。

P12
いいちゃん懇談会
議員さん！教えてよ。そして聞いてよ。
議会視察先の報告から、白熱の討論へ。

P24
町民の声を議会へ
あつまれ「姫」!!
「サイ!サイ!」と炎のように燃える心で神輿をかつぎ盛り上げる「七姫會」の物語。

町政を問う

ここが聞きたい

11議員が質問

本多　昇　**60周年記念事業**
予算と整合しているか … P13

久保島　巖　**特命チーム営業部**
何をするか …… P14

中村　明美　**福祉タクシー券**
対象者条件の緩和を …… P15

滝本登喜子　**障がい者サービス**
利用機会の拡大を …… P16

竹沢　秀幸　**カレー給食**
スプーンを使うべきでは … P17

三浦寿美子　**介護保険改正**
今から対応策を …… P18

浜田　稔　**核のごみ**
受け入れ拒否明言を …… P19

橋場 みどり　**災害時情報**
確実な伝達方法は …… P20

折山　誠　**旧紅葉園**
処分と活用は …… P21

堀内　克美　**集落環境保全**
地元同意の義務付けを …… P22

坂本　紀子　**基本構想期間**
10年を8年にしては …… P23

「一般質問」とは
行財政にわたる議員主導による政策の議論です。（通告順）

表紙の写真／本郷地区敬老会にて

追跡 あれどうなった

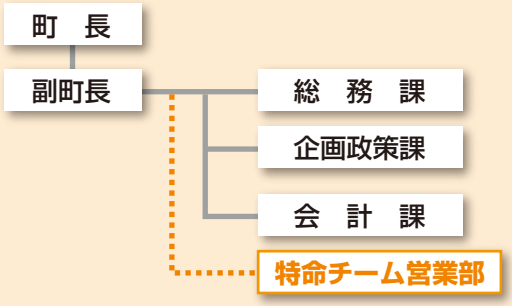
町営業部を行政内部組織に（平成28年6月定例会一般質問）

問 町営業部を行政外部組織としてでは無く行政内部に設置し、トップセールスの基盤とすべきでは。

答 行政内部組織に「特命チーム営業部」を設置

その後

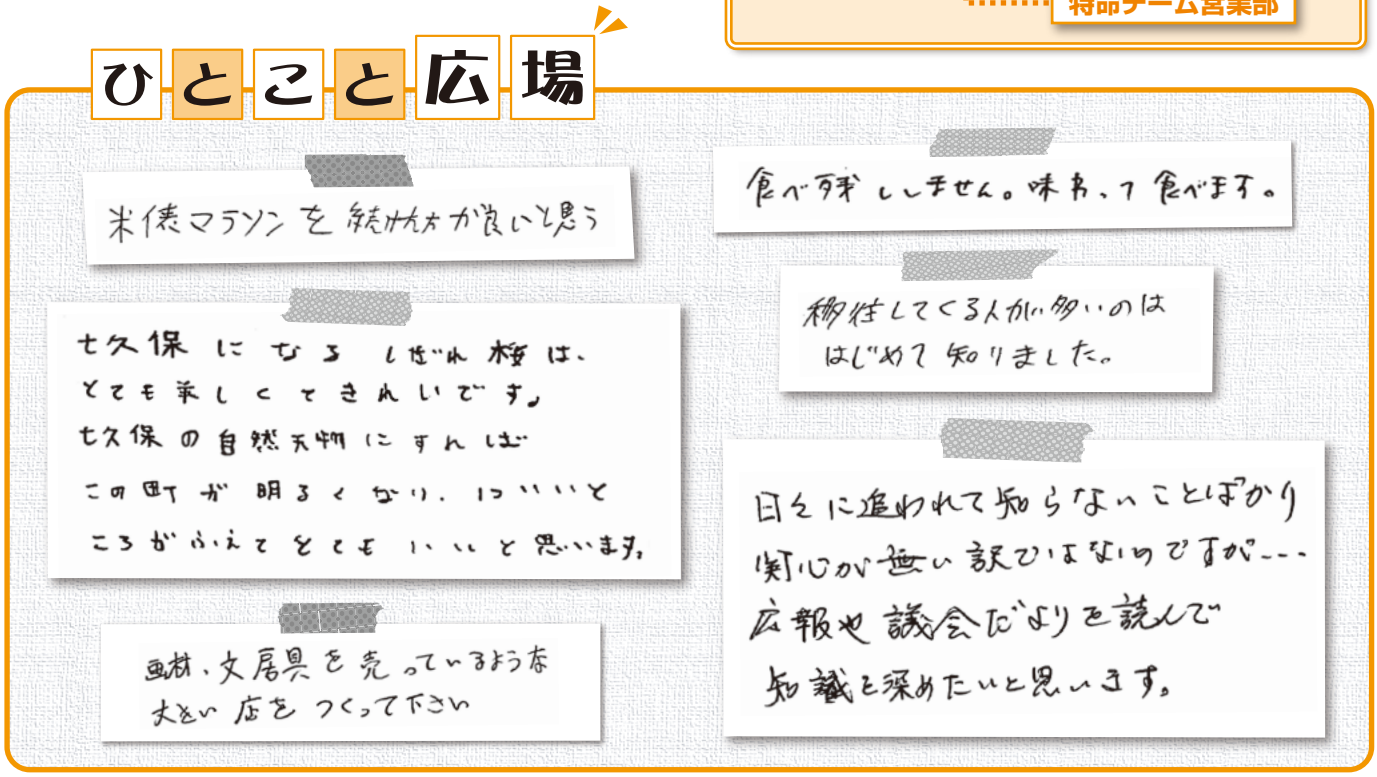
課設置条例の改正（平成28年9月）



一般質問・審査での意見・請願陳情

その後のゆくえ

ひとこと広場



町村議会議員研修　松本市
議会活性化を学ぶ　7/21

「議会の活性化と政策立案」と題して、明治大学教授　牛山久仁彦氏の講演と県内４町村（軽井沢町・南箕輪村・麻績村・飯綱町）議長の発表がありました。

議会改革のあり方を学びました。

伊南市町村議員研修　中川村
不屈の精神力で世界へ　7/26

「商品力と販売力～聞いたような話と見た話、やってみた話」㈱明治亭社長片田秀昭氏と「不屈の精神～人生は一度きり」㈱ディー・エム・ティー社長平澤正幸氏、それぞれの企業経営・人生観を学びました。

9月定例会　平成27年度決算審議

国の「地方創生予算」など積極的活用

求められる公共施設長寿命化などの負担

実質単年度収支*1億6853万円の黒字
単年度収支　　1億6733万円の黒字

9月定例会は、9日から21日までの13日間開催されました。
町営業部の組織変更・農業委員会にかかわる条例変更と平成28年度補正予算などが提案されました。
平成27年度一般会計・各特別会計、水道事業会計の決算並びに平成28年度補正予算および請願・陳情は2つの常任委員会に分割付託し、それぞれの委員会で審査しました。
本会議最終日に全案件を認定・可決しました。
一般質問は11人が立ち、町政をただしました。

＊実質単年度収支とは
その年度中に発生した赤字か黒字か（単年度収支）に貯蓄や借金の増減などを加味したもの。
単年度収支が赤字でも、借金の前倒し返済や貯金した額を考慮すると実質黒字と判断できる場合がある。また、黒字に見えていても貯金を取り崩して運営していた場合などには、実質赤字の場合もある。

一般会計　歳入歳出ともに3年連続の増

歳入

54億3530万円　前年度対比　**4億 8554万円 増**

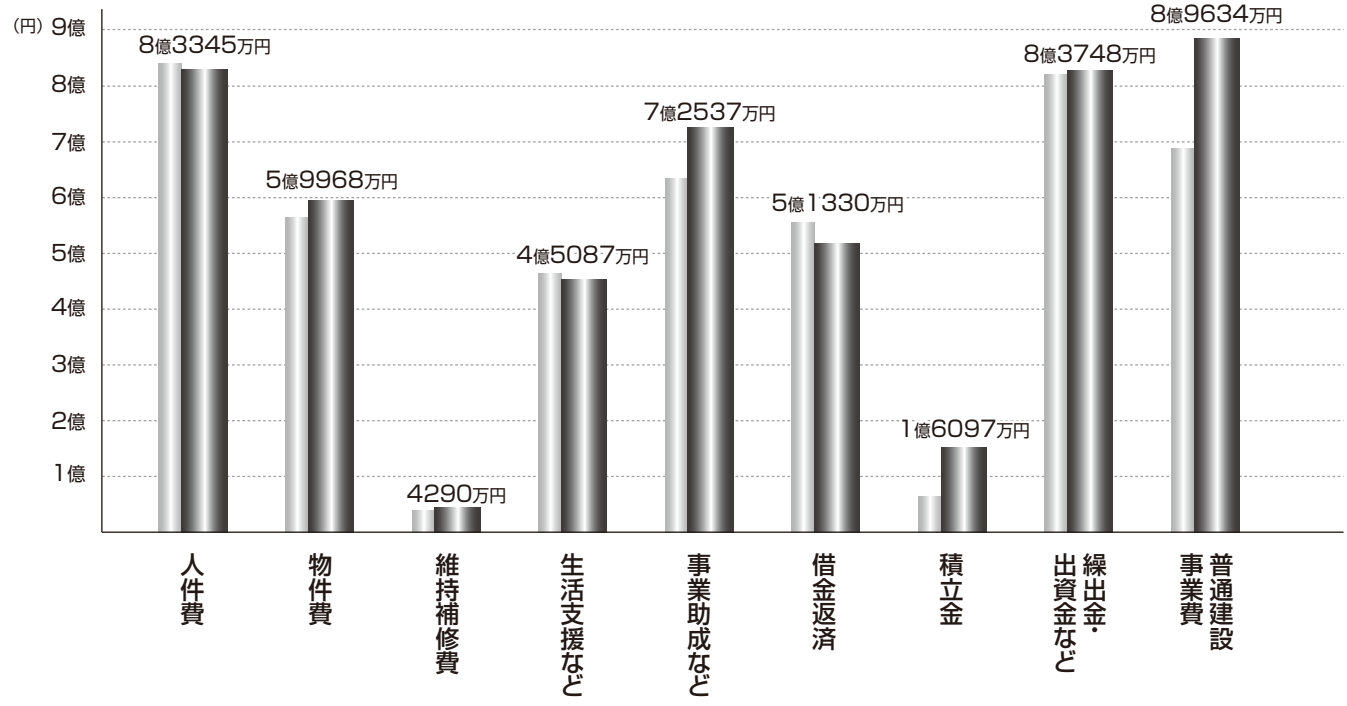
町税が前年比1.1％３年連続増、地方交付税2.5％増、国支出金9.9％増
県支出金は経営所得安定対策事業などにより35.9％増となりました。

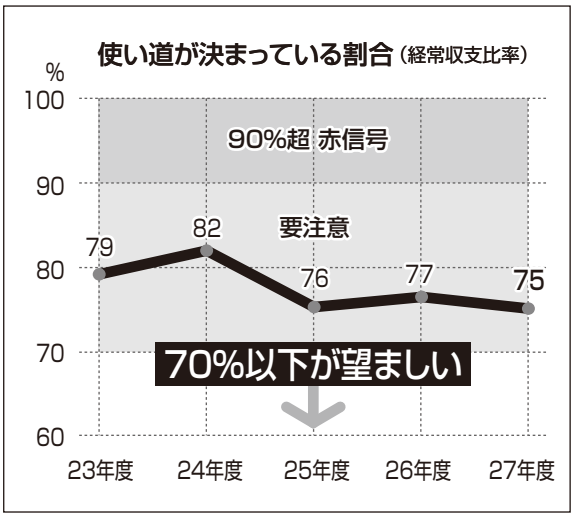
歳出

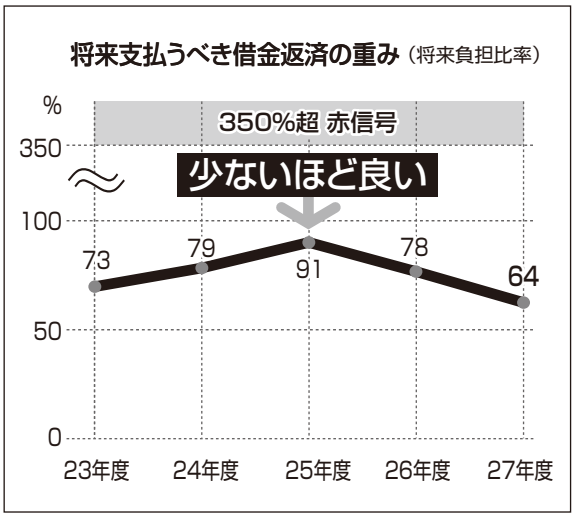
50億6038万円　前年度対比　**3億 7271万円 増**

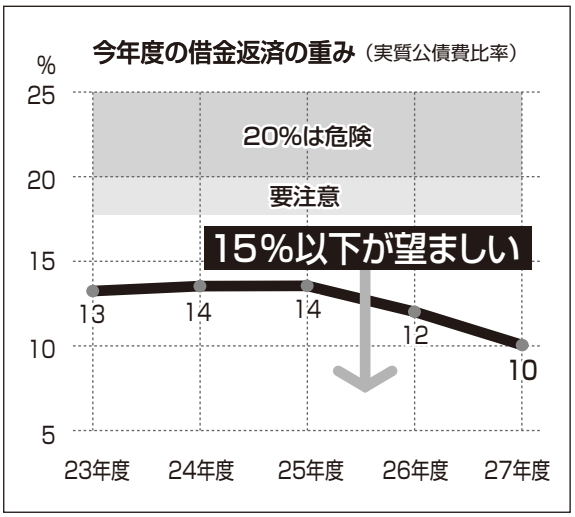
増額の大きな要因は、普通建設事業費で29.6％２億455万円増で、道の駅整備事業や飯島町文化館防災機能強化事業などによるものです。
積立金は144.7％の増となりました。
一方公債費全体では8.2％、人件費は1.2％の減でした。

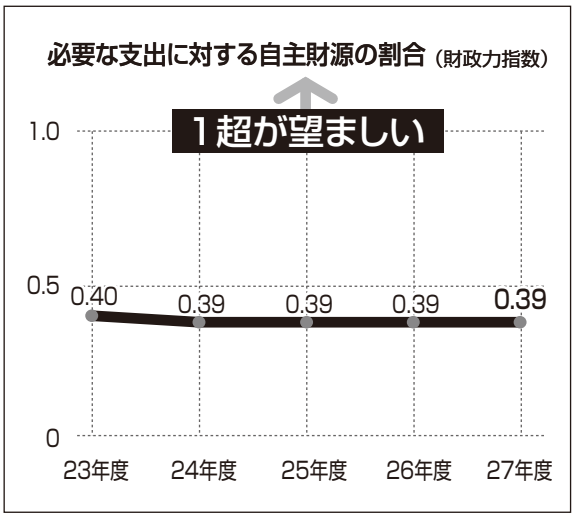
性質別決算額の推移グラフ　▒…26年度　▒…27年度











・経常収支比率の改善は、臨時財政対策債が減額したものの、地方税や地方消費税交付金、地方交付税など経常一般財源増加の効果が大きい。
・将来負担比率は、下水道関連特別会計の借金繰り上げ返済により、前年比14ポイント改善している。
・実質公債費比率は、前年比1.9ポイント改善。適切な繰り上げ返済が求められる。
・財政力指数は横ばいである。税収増につながる政策の展開が望まれる。
・道の駅「田切の里」整備事業や飯島町文化館の防災機能強化など、大型事業を実施した。

今後の新規事業は、今まで以上に計画性をもって慎重に行い、健全な財政運営を継続することが求められる。

平成27年度　会計別決算

会計区分		歳入	歳出	差引額	貯金（基金）	借金（公債費）
一般会計		54億3530万円	50億6038万円	3億7491万円	19億 786万円	49億9153万円
特別会計	国民健康保険	11億3834万円	11億 864万円	2965万円	1億9843万円	―――
	後期高齢者医療	1億2061万円	1億1807万円	253万円	―――	―――
	介護保険	10億2951万円	10億2629万円	321万円	4120万円	―――
	公共下水道事業	3億9208万円	3億6046万円	3161万円	―――	39億6703万円
	農業集落排水事業	2億8523万円	2億5634万円	2889万円	―――	20億3580万円
水道事業		2億9575万円	3億7676万円	▲8101万円	1億 150万円	16億3346万円
合計		86億9684万円	83億 702万円	3億8981万円	22億4899万円	126億2784万円

（万円未満は切り捨て）

本会議
決算審議

地方創生・年度途中の町長交代
円滑な大型事業実施を評価

一般会計

全員一致で認定

賛成 年度途中で事業量が増加し、また正副町長が交代する中、行政運営に支障を生じさせない努力と健全経営を評価。

賛成 マイナンバー導入、地方創生事業など10億円の増額補正を乗り切った職員努力を評価。

賛成 道の駅事業・文化館防災機能強化など、特徴的な事業実施と財政指標の改善を評価。

付帯意見

・「いいじまマルシェ」や「道の駅花の里いいじま」の負担が大きい。経営改善に努められたい。

・プレミアム商品券など一過性の商業振興策は、効果の持続性など考慮して慎重に。

特別会計及び水道事業会計

全員一致で認定

28年度
補正予算

初の顧問弁護士契約など

一般会計　全員一致で可決

前年度決算に伴う繰越金や交付税増額分などを財源として、補正額２億8319万円、予算総額51億8149万円を可決しました。

質疑の中で、一部議決前の予算執行が確認され、ルールの順守を強く求めました。

主な補正財源

国から

○地方交付税　１億489万円
○障がい者自立支援給付金　277万円
○地方創生推進交付金　200万円

繰入金

○財政調整基金繰入金　▲594万円
○地域福祉基金繰入金　▲6300万円
○公共施設等整備基金繰入金　▲2900万円

繰越金

２億7401万円

地方債

○臨時財政対策債　▲600万円

主な使い道

○顧問弁護士相談報酬　19万円
○減債基金積立金　１億円
○高度情報化基金積立金　1500万円
○公共施設等整備基金積立金　4000万円
○地域福祉基金積立金　3000万円
○町道補修工事、除雪用機械等購入補助　2730万円
○町道本郷幹線改良事業　852万円
○災害復旧工事（日曽利）　147万円
○土地開発公社運営補助　3000万円

特別会計５会計および水道事業会計は、前年度繰越額の確定に伴う補正を全員一致で可決しました。

条例制定・改正・廃止

◇町農業委員及び農地利用最適化推進委員定数条例制定
※法改正に伴い選挙定数条例を廃止し、最適化推進委員を含む定数条例を制定
全員一致で議決

◇課設置条例の一部改正
※規則で定めた町営業部を廃止し、町長部局に「特命チーム営業部」を設置
全員一致で議決

◇産業廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正
※ゴミ減量化を目的に広域連合条例が改正され、町一般廃棄物処理手数料を改定
議決　賛成8　反対3

意見

賛成　減量化を目的とした改正
反対　値上げという手段でのごみ減量は賛成できない。

◇町介護予防等拠点施設設置条例の一部改正
※使用料の実質値下げ
全員一致で議決

◇町記号式投票に関する条例を廃止
※町長選挙投票の記号式を廃止し、全選挙投票方式を自書式に統一
全員一致で議決

請願・陳情

○広域農道・153伊南バイパス間の幹線道路整備
陳情者：田切区長 他
全員一致で趣旨採択

○原子力発電所の再稼働を中止するよう政府に求める請願
請願者：竜援塾代表 中川賢俊（まさとし）
不採択　賛成5　反対6

意見

反対　国は安全基準を高め、安全安心に対応している。
反対　地球温暖化防止が急務であり再稼働が必要。
賛成　最終処分までの燃料サイクルが確立されず、安全安心が担保されていない。
賛成　福島原発避難住民対応や汚染水処理・廃炉処理を政策優先すべき。

議員研修会

住民自治の根幹としての議会へ!

8/23

町議会活性化を目的に、山梨学院大学 江藤俊昭（えとう としあき）教授による研修会を開催しました。
教授からの活発な議会の事例紹介を元に、自由討議を行いました。
地方議会に与えられた大きな権限と責任を痛感し、果たすべき役割りを改めて認識しました。

○年間事業計画策定と公表
議会活動年間サイクルを明確化していることを評価された。

○委員会活動
委員会は議論を深め、議会としての提言にまでつなげることが重要と指摘。

○議会図書室
先進地視察・議員研修ほか議会活動報告を広報やＨＰで行っていることは評価。議会図書室に報告書の整備が無いことを指摘。

○議決は責任重大
町が提案する予算案などの議案は、行政運営の方向や執行を決する重要な行為。『議決責任の大きさを痛感せよ』と指導。

○議会の存在意義
一方の住民代表として、首長の独善性の監視と政策立案の役割を発揮すべき。と指導。
町民の付託に応え得る議会改革の、大きな道筋が見えてきた研修となりました。

議員の声に耳を傾ける教授

総務産業委員会 決算審査

職員定数・処遇を議論

平成27年度各会計決算の分割付託分を審査し、全会計を全員一致で認定すべきものとしました。

総括質疑

問　職員体制が2人欠員のままだ。早急に対応すべきだ。
答　欠員の上事務量も増しているが、年度途中はむずかしい。派遣している４人を含んだ117人体制で良いのか検討する。

問　嘱託・臨時職員の待遇が近隣市町村にくらべ良くない。改善が必要だ。
答　専門職では、嘱託職員の正規採用も行っている。保育士は近隣と特に差が見られるので、改善していきたい。

問　花の里・マルシェの補助金がある。田切の里も今後加わる。今後の考えは。
答　基本的に自立していってもらうことが原則。

賛成討論

◇平成27年度は国の政策で補正が急増したが、運用として問題はなかった。
年度内でのトップ交代や年度末の大きな人事異動もあった中で、十分な引継がされたことをうかがわせた。
一方小さなほころびもあったが今後の引き締めを期待する。
◇決算収支を考えた場合、単なる繰り越しではなく、基金の積み立てや繰上げ償還など、もう一工夫できた決算ではないか。
◇不用額の適正化は早めの手立てが必要だ。
◇各催しものが、高齢者や若年層に偏るものが見られる。
町民の一体化が図られるよう望む。
◇農業集落排水事業内での工夫の余地は限られる。将来的に持続していくためには、公共下水道との合併も視野に入れた検討が必要になる。
◇水道事業で残り９kmとなった石綿管の布設替えを計画的に進めてほしい。有収率の改善を行い、適正な運営とすることをのぞむ。

条例審査

町農業委員及び農地利用最適化推進委員定数条例制定
◇従来の選出方式の変更に際し、激変緩和処置が考慮されたものであり賛同する。
◇議決権は農業委員の12人に限られるものの、会議には推進委員４人も参加でき、以前の16人の合議体が確保されていることは評価できる。

課設置条例の一部を改正する条例（特命チーム営業部）

質疑

問　なぜ「課」でなかったか。
答　大課制の中でこれ以上課の増設は避けるべきとした。

問　係相当の意味は。
答　他課に属さない町長直属の部署とした。陣容は副参事・係長・協力隊の３人。

問　副参事は課長会に出席するか。
答　出席する。

討論

◇いろいろな問題があったが、これですっきりした。十分に力を発揮してほしい。なお、名称も「特命チーム」としたことで「課」の上の「部」という誤解は防げる。
◇町長のマニフェストの実現ができるように頑張ってもらいたい。期待している。

請願・陳情審査

◇田切区民の生活道路の確保を
提出者：田切区長　伊藤馨（かおる）氏 他
趣旨採択　賛成４　反対０
◆内容　広域農道と国道153号間に幹線道路の確保を求める。

意見

賛成　駒ヶ岳スマートＩＣと伊南バイパスを結ぶ路線として、交通量の増加も考えられ、地域住民、特に高齢者や児童生徒の安全安心のため必要だ。

※趣旨採択とした経緯
　陳情趣旨には賛成できるものの、具体的な経路は検討が必要。

◇TPPに関する情報開示・農業政策の確立を
提出者：JA上伊那
御子柴茂樹（みこしば　しげき）氏
採択　賛成４　反対０

◆内容　国は十分な情報開示と明確な説明を。中長期的な農業農村対策を確立すること。国会決議を守り、国民の不安や懸念が払拭されない限り、批准を行わないこと。

意見

賛成　十分な審議と情報公開を求めることは当然の共通認識である。
　持続可能な農業政策がＪＡや全農のためでなく、真に農家自身のために法制化されることを望む。

補正予算審査

平成28年度一般会計補正予算(第3号)分割付託分と3特別会計の補正予算を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

質疑

問　飯島町発足60周年記念事業で法被（はっぴ）を作るとされているが詳細は。
答　関係者と相談し、ふさわしいものにしたい。後々使えるような汎用性も考慮する。

問　大博覧会のテントや机など備品の数は、プレイベントより増えるのか。
答　現在募集中で確定ではないが、増えることを想定している。

問　アウトドアフィールド構想（パラグライダーなど）で講師料を予算化しているが詳細は。
答　講師は決まっていない。町には何が合うか・合わないかの研究をするための講座で、事業化の段階ではない。それ向きの人を選定する。

問　営業部の内部組織化に伴い、営業部へ交付した176万円を一般会計に戻す補正となっている。交付した全額を戻した方が良いのではないか。
答　交付額のうち255万円はすでに活用している。これについては営業部決算で報告する。全額戻すと二重計上など不明瞭になるので、残金176万円の返金とした。

商工会役員懇談会
要望をお聞きしました。
8/22

商業部会
1. 国道バイパスから旧道までの誘導看板設置を。
2. 後継者のいない事業の承継対策を。
3. 広告宣伝補助金継続を。

工業部会
1. 展示会出展費用の補助金増額を。

建設業部会
1. 工事の町内業者への発注を。
2. リフォーム補助金の拡大を。

上伊那広域消防本部発足１年
9/15

総務産業委員会では、後藤伊南南消防署長と那須野伊南北消防署長を招き、広域化の効果と課題を聞きました。

広域化により
- 初期体制の増強と第２次出動体制の充実が図られた。
- 市町村境界を超えた活動が可能になり、現場到着時間の改善された地域もある。
- 指揮命令系統の統一が図られた。
- 各市町村の財政負担の軽減が図られた。

というメリットがある一方、組織統合に伴う処遇や指揮隊の人員不足などの課題も感じられました。

社会文教委員会
決算審査

臨時嘱託職員の処遇改善を

平成27年度各会計決算の委員会付託分を審査し、全会計を全員一致で認定すべきものとしました。

主な質疑

問　実質公債費比率の将来目標は。
答　農業集落排水の繰上償還で数字がよくなった。公共下水道事業も繰上償還をすすめ、健全化していきたい。

問　準要保護児童・生徒就学援助事業・特別支援教育奨励事業の前年度との比較は。
答　いずれの事業も該当人数が増加している。

問　「花の道小学生バレーボール交流会」に毎年1000人以上集まる。表彰など、何か考えているか。
答　過去には大会主催団体を表彰した例がある。次年度以降検討したい。

問　行政評価書で「学童クラブの開所時間・料金の見直しができなかった」とあるが、理由は。
答　人件費と料金収納方法の調査研究が必要であり、見直しにいたらなかった。

問　増加している未満児保育の保育士確保と運営の考えは。
答　不足の状況をみながら、職員の定員管理も含め、今後検討する。

問　古紙回収の報奨金制度では、収入以上の額を支払っている。今後も行うのか。
答　啓発が目的で行ったもの。今年度限りだが、住民からの継続要望はない。

問　小水力発電事業に町は出資しているが、報告はあるか。出資者には見返りがあるのか。
答　年１回総会で報告がある。収益が上がってきたら、配当も考えるということである。

問　差し押さえの実態は。
答　換価しやすいところから押さえていく。預金・国税還付金・給料・年金・不動産。農地は話し合いで行う。

問　引きこもり対策での民生委員の関わりは。人数は掌握しているか。
答　民生委員はすでに関わっている。県の就労支援・社会福祉と連携をとり、体系づけも図りたい。該当者は100人以上いると思われるが、正確に把握していない。

問　自立支援事業の今後の見通しは。
答　人口が減少しても障がい者が減る傾向にはない。生活介護事業は「石楠花苑」・「親愛の里」でも行い、いずれは町内にグループホームも必要と考える。

問　病気・介護予防策に、椅子で座ってできる「いいねいいじま」のバージョン普及や、継続して体力づくりができる仕組みを工夫しては。
答　「ちょきん教室」終了後は「いいじまいちご」の健康教室につなげている。好評なので今後も続けていけるよう努める。

問　未熟児数が増えているが、実態は。
答　26年は今までにない人数で、27年も多い。ハイリスク出産は当町でも起こっている。
　エコチル調査*事業も進められている。
＊子どもたちの成長・発達に影響する環境要因の調査

問　福祉医療費は、子どもが減っても増える傾向か。
答　子どもの入院費は県補助になり町の負担は減ったが、身体障がい者手帳取得者は増加し、医療費全体は増える見通し。

総括質疑

問　健康福祉課では健康づくり計画が策定できなかった。教育委員会では、学芸員が歴史調査に取り組めなかった。
　本来必要な人材の確保を考えているか。
答　職員は実質２人足りない状況。学芸員は新年度１人採用予定。定年退職に伴う若手職員の

教育や、ＩＴ活用で効率性を高め対応する。

問　障がい者グループホームを町内に設置できないか。親亡き後のためにも、町営住宅の利用などを考えていくべき。
答　見すえていく必要がある。市町村間の協力もあると思うので重要課題とする。

賛成討論

一般会計

◇子育て支援の３歳児以降の保育料無料化や子育て支援センターでの相談など、医療福祉の取り組みを評価する。
◇延長保育など行政全体が職員不足の中、良く頑張った。
◇「いちいの会」の人数増加は、取り組みの効果がでたものと高く評価する。

付帯意見

◇産廃不法投棄問題の対応が置き去りにされた。今後高い視点での指導が必要。

国保特別会計

賛成

◇予防強化事業が実っていると思う。
◇滞納者が増えているが、住民１人ひとりの実態を考慮し対応してきた。
職員の対応を評価する。

補正予算審査

平成28年度一般会計補正予算(第3号)分割付託分と３特別会計の補正予算を審査し、全員一致で可決すべきものと決定しました。

質疑

問　Ｂ型肝炎予防接種の対象者人数・接種回数・告知方法・医療機関は。
答　70人で３回、４月の新生児訪問・３か月検診時など数回知らせている。町内では、のどかクリニック。

国保特別会計

質疑

問　3000万円繰り越されたが28年度の運営はどうか。
答　今年度は医療費の伸びが大きく、基金の取り崩しはまぬがれない。

請願審査

◇原子力発電所の再稼働を中止するよう政府に求める請願
提出者：中川賢俊氏
採択　賛成3　反対2
◆**内容**　高レベル放射性廃棄物の処分方針も決まらず、事故の対策や原因究明も進まない中、安全性が強く懸念されている原子力発電所の再稼働を中止すること。
賛成　福島原発事故以後、核のゴミ捨て場所や避難対策も出来ていない。住民の不安を拭えていない現状では再稼働をするべきでない。
反対　国の問題を町として判断を下すべきか疑問だ。福島原発は津波が原因であり、地球温暖化をいかに抑えるかという観点から反対。

平成27年度決算に伴う現場を調査しました。9/16

強化された文化館の吊天井

議員さん！教えてよ。そして聞いてよ。

いいちゃん懇談会 9/6

議員が視察した町おこしをしている所の様子を報告し、いいちゃんまちづくり連絡協議会と５つの分散会で熱く語りあいました。

議員からは主に次のような視察先の町づくりを紹介。

隠岐の島の海士（あま）町

議会だより71号参照

・何も特徴の無かった離島。
・海産加工場など町が起業、民間に移管しiターン者が担い手。
→地域財産の掘り起こしが大切。
→転入者との協力で活気を。

徳島県上勝（かみかつ）町

議会だより71号参照

・木の葉ビジネスでブレイク。
・ごみゼロを本気で目指す。
→人の足を引っ張らない、長い目で育てる風土を。
→成功に満足せず次のテーマへ。
→小さい町が大切、大きな市に引きずられないこと。

話が弾んで予定時間を超え、数々の声が集まりました。

→マップを作り町内のウォーキングコース紹介や案内所を。
→花火週間で、花火めぐり（スタンプラリー）を。
→千人塚ログハウス活用と安価な料金設定を。

→転入者は、住民と一緒に活動したいと考えている。転入時に丁寧な説明を。
→町臨時職員の処遇改善を。子育て世帯の生計が成り立たない。
→未満児保育が増加。家庭で育てるべきでは。
→伊那三女など歌人を記念して歌詠み大会を開催したら。
→飯島陣屋で代官御膳を提供したら。
→地産地消・宴会料理の無駄排除の取り組みを。
→文化やスポーツイベントの統合を。
→陣嶺館の土器などの企画展を。
→子育て支援センター機能を、避難所機能より優先してほしい。

中部伊那議員研修

中央アルプスの国定公園化を提言

9/2

中部伊那4町村（飯島・松川・中川・大鹿）の議会議員研修が、飯島町文化館を会場に、理事者同席の中開催されました。政策課題9議題が採択され、正副議長が県へ要望活動を行うこととしました。

研究討議

当町からは２件の提言を発表し、それぞれ採択されました。

「中央アルプスの国定公園化と県道千人塚公園線の改良促進を求める」　本多昇議員

「中部伊那地域の自然エネルギー活用に県の支援強化を求める」　浜田稔議員

JICA所長講演

駒ケ根青年海外協力隊訓練所 清水勉所長による「日本のODAとJICAのボランティア事業」と題した講演がありました。

ODA（政府開発援助）を開始してからちょうど60年目にあたる節目の年である。

青年海外協力隊も50年以上の歴史を持ち、これまでに4万人を超える人々が参加していることなどをお聞きした。

参加議員からも、日本の国際協力はどのような役割を担ってきたのかなど、ODA・ボランティアに対する質問が多数出されました。

60周年記念事業

予算と整合しているか

予算内で実行する　町長

本多　昇

問　60周年記念事業の冠（かんむり）を様々なところで使用して実施している。

予算と整合しているか。

町長　記念事業内容を精査し、予算を組みかえ総枠を1000万円としている。

総務課長　総枠1000万円の内訳は、記念式典180万円・プレイベント367万円・大博覧会452万円など。

冠事業はそれぞれの事業予算の中で実行している。

副町長　プレイベントは、予算オーバーして大博覧会予算の一部を流用したが、記念事業全体では1000万円におさめる。

問　特別会計の公共下水道・農業集落排水事業・国保会計の各会計の実質収支は不用額（予備費）とほぼ同額だ。

不用額を検証すれば特別会計への繰出金を抑えられるが。

町長　事業内容を検証し精査を行いながら適正に交付している。

問　財政調整基金は、10億200万円で標準財政規模の30%だ。一方上伊那6町村の標準財政規模に占める割合の平均は36%だ。

満足せず更なる積み立てが必要では。

町長　基金の一番の柱なので、今後も財政状況を見ながら適切な基金運用や積立に努めたい。

過大な繰越金

問　実質収支が3億4185万円、実質単年度収支も1億6853万円の黒字となったが、繰越金が3億4100万円と過大で評価できない。

不用額は3億5266万円、予備費を除いた不用額は1億2564万円だ。大幅に増加した要因は。

企画政策課長　減額補正をしなかったため。

問　実質公債費比率10%、将来負担比率63.5%となり指標は改善されたが、一般会計の借入金は2700万円増加している。

一般会計で繰上償還をしなかったのはなぜか。

企画政策課長　公共・農集事業は繰上償還をおこなった。一般会計では適切な起債がなかった。

問　一般会計補正予算で否決された講師謝礼などの48万円は、どのように処理されたのか。

町長　講師との調整により、町費負担はないこととなった。

伊南バイパス看板設置

問　本郷中央信号から石曽根信号まで2分30秒、観光客はあっという間に通過してしまう。

町中心部へ誘導する看板が必要では。

町長　まちなか活性化を重点課題とし取り組んでいる。既存商店街への人の流れをつくりたいと考えている。

商工会と協議するなかでより良い方法を検討していく。

〔以上3件質問〕

町はどこにある?

久保島　巖

特命チーム営業部

何をするか

飯島町営業部を支援　町長

問　組織変更があり「特命チーム営業部」が設置された。「飯島町営業部」との役割分担は。

町長　庁内組織で「特命チーム営業部」をおき、民意を集結する任意組織「飯島町営業部」の活動を支援していく。

副町長　「飯島町営業部」の構成は4部門で、公募で7月末に100人以上になった。今後も随時参加を呼びかける。

問　第5次総と整合するか。

町長　「産業の創造と振興のまちづくり」にまさしく合致する。

問　今後の交付金はどうなるか。

副町長　一般会計で運用する。

問　町を売り出す点では「まちづくりセンター」「観光協会」「まちなか活性化協議会」と共通している。統廃合が必要だ。

町長　組織的にはすみ分けができている。継続性も考えると現行のままで行きたい。

総合計画の見直しは

問　現総合計画は下平町長就任前に制定された。マニフェストとの相違があり、総合計画の見直しをすべきではないか。

町長　マニフェストは3つのチャレンジで、人口15000人ではない。人口9500人を公式の目標としている。それは合致しており、総合計画の見直しは必要ないと考える。

総合計画は町長個人のものではなく、住民の意見などから審議会で策定している。

飯島歴史資料館を

問　飯島町の名前の由来は「飯島氏」にある。1182年頃発祥したと言われ、歴史がある。全国の飯島姓の聖地となるべく歴史資料館を整備すべきだ。なぜこの地が選ばれたかを検証するための石器・土器時代からの博物館も併設すると効果的だ。また芸術文化を保存する美術館機能もあるとよい。

教育長　必要性は感じている。陣嶺館も老朽化が進み、考えていく必要がある。しかし大きな施設建設は現在の状況からは考えにくいが、知恵を絞っていきたい。

奥出雲町と交流を

問　島根県奥出雲町の前身「出雲三澤」は飯島氏7代目が赴任し隆盛させた名君で、三澤城710年祭も開いている。飯島町も招待を受け参加している。

このように縁深い「奥出雲町」と災害時応援協定を結んで、町全体で交流していきたいが。

町長　700年以上前のご縁で、薄らいでいると考えるので住民の中での醸成も必要だ。

現在住民間の交流が盛んになりつつあることから、先方の意向を確認し、議論を深めていくのが現実的だと考えている。

〔以上４件質問〕

飯島城の古地図

福祉タクシー券

対象者条件の緩和を

次年度検討　町長

中村 明美

問　福祉タクシー券事業では、認定条件に「日中高齢者のみ」とある。しかし、同居家族の職種などで認定されない人もあり、不公平感がある。認定段階では民生委員の調査・判断など負担も大きい。公平感と民生委員の負担軽減を考え、年齢別交付を提案するが。

住民福祉課長　民生委員からも基準緩和への意見があり、実態把握をしている。条件緩和と年齢別交付を、財政面も考慮して次年度予算で考えていく。

問　交通事故防止策として、後期高齢者に運転免許の有無に関わらずタクシー券を交付しては。

住民福祉課長　９月１日現在、75歳以上は1798人。一斉交付なら2000万円程の経費がかかる。来年度は日中独居者とあわせて考えていきたい。

循環バス運行の充実を

問　住民から『循環バスと電車時刻との連絡が良くない』との声を聞いた。電車が飯島駅に着く前にバスが発車するケースがあった。バス時刻の改善を。

総務課長　ＪＲの上り下り、５駅との連絡調整は難しい。朝は利用が多く調整を検討したい。

問　高齢者の健康は医療費削減効果につながる。元気な高齢者が気軽に外出できるように70歳以上の循環バス料金を無料にしては。

　タクシー券事業・循環バス事業には共通点があるので、連携を図りより良い運営を考えては。

町長　アンケートでは運賃200円は高くないとあり、住民の無料化要望もない。

健康福祉課長　２つの事業は、制度上あまり関係性がない。しかし交通弱者対策としては、担当部署の連携が必要と考える。

総務課長　福祉という面では共通するので、利用し易いものになるよう連携を図っていきたい。

ご当地ナンバーの推進を

問　地域振興・観光振興の一役として「ご当地ナンバー」の導入を南信地域に推進しては。

町長　導入時の地域アンケート結果では①地域や観光振興へ自治体連携が進んだ。②対象地域の住民に一体感が生まれた。③地域知名度の上昇や観光客数が増加した。

　など効果があった。

　一方、導入地域住民の負担増も生まれている。

　私の経験からも、ナンバープレートに地名がある意味は大きいと感じている。地域ブランドの発信効果も大きい。ご当地ナンバーが出来たらいい。リニア時代を迎え、地域が一体となる名前ができれば魅力的と思う。

〔以上３件質問〕

走る広告!

滝本 登喜子

障がい者サービス

利用機会の拡大を

石楠花苑でも開始

町長

問　地域活動支援センター「やすらぎ」の利用人数が増えている。支援体制・指定管理料の増強を。

健康福祉課長　職員は２名だが、活動はボランティアの協力により補われている。事業所のノウハウやそれを生かしたプログラムなどで、利用者の関心が高く人数は増えている。事業内容は多様化しており、人件費・管理料の適正化を検討していく。

問　障がい者のデイサービス・宿泊を伴う一時預かりの施設の設置を求める。

町長　町内には民間で２か所ある。改修予定の石楠花苑には、来年４月から障がい者サービス事業が予定されている。

　近隣にサービス事業所は少ないが、一人ひとりにあった施設を紹介していく。

問　障がい者が、生活支援事業に参加できる取り組みを。

町長　生活介護・移動支援・就労支援などのサービスを受けていない人には、いろいろな事情がある。本人の意思を尊重して、ケース会議で保健師・社会福祉士・関係機関が連携を取り、よりよい生活が送れるよう支援していく。

行政とコミュニティー

問　耕地・自治会の生活改善推進委員の独自の活動はない。役割をどう考えるか。

**　男女共同参画懇話会での位置付は。**

教育長　地区生活改善推進委員は耕地・自治会から１～２名選出され、67名いる。

　年１回の総会・ワークショップなどに参加している。表立った活動は難しい現状だが、地域の課題を取り上げ共有し、地区に戻って話題にしてくれる事で地道な活動になる。

　男女共同参画懇話会のメンバーではない。

問　食品ロス、衣料品・食器・家具などのリサイクルの取りみを、町ではどう考えるか。

教育長　現代では個人のライフスタイルや地域・隣組でも異なる習慣がある。町で統一することはなじまない状況だ。生活改善申し合せの中での取り組みであるが、方向性が出てきたら改訂したい。

問　町の防災訓練と耕地・自治会での取り組みに温度差がある。

**　年２回の訓練を提言するが。**

町長　今年度は減災に重きを置き、避難と安否確認をいかに早期に行えるかとしたが、町が求める目的や手法が充分に伝わっていなかったことは課題だ。

　防災研修会を開き次年度に生かしていく。

総務課長　実現のためには、年２回やろうという機運の盛り上がりや住民意識の高まりが必要だ。

　実施時期などの調整が必要で、実現には時間を要すると考え検討したい。

訓練での実践利用を!

問　一般質問での答弁で、検討事項・実施事項のその後の対応の報告がない。全議員が認識し共有することが必要だが、町ではどうとらえるか。

町長　町政に関する情報の共有は極めて重要である。その後の結果・状況報告は適切な時期に報告するよう徹底していく。

〔以上３件質問〕

カレー給食

スプーンを使うべきでは
必要ならスプーン持参を　教育長

竹沢 秀幸

問　町の学校給食は、カレーを食べるのに箸を使用。児童生徒から不満の声が数年寄せられている。スプーンと洗浄機に費用を要するなら、箸をやめて、マイスプーンを持参させ食育を正しく行うべき。

教育長　『スプーンが良いという人も、箸で食べることに意味があるという人もいて、最近カレーを食べるのが悩ましい』。

平成25年にスプーンの洗浄機が壊れた。新規購入するには高額である。カレーを食べる回数は年に10～11回であり、更新を見送った。

学校給食献立委員会でも話題となり、スプーンを持参することは問題ないとの結論。

必要な児童・生徒にはスプーンを自宅から持参するよう通知している。

老朽化した給食センターを将来整備するのに併せ、スプーンを洗浄できる設備を取り入れたい。

オンリーワンのまちづくりを

問　長野県初のメダリスト奥原希望（のぞみ）選手に仮称「飯島町栄誉賞」授与を提案する。

町長　大町市が表彰するため、飯島町としては考えていない。

問　「全国に類をみない煙火店が複数ある町」の個性を活かした町おこしを。

町長　花火を地域資源として町おこしに活用したいと思っている。オンリーワンは難しいが変化球で考えたい。

問　鳥羽市で臨海学習を。

教育長　保護者負担や距離が課題。今後調査研究する。

問　鳥羽市と友好姉妹都市提携を。

町長　今後も交流を深め、声が高まって来たところで締結したい。

福祉入浴券発行事業を

問　高齢者が元気で暮らしてもらえるように、福祉入浴券発行事業を。

健康福祉課長　介護保険の総合事業を検討しており、要支援1・2の人から入浴希望がある。

実施の方向で検討したい。

町長　現場担当者の必要性の検討を待って判断したい。

〔以上３件質問〕

スプーン　持ってくるか？

海の幸！ 交流したいな！

三浦 寿美子

介護保険改正

今から対応策を
利用者の実情重視する

町長

問　“介護保険「生活援助」縮小へ　車いす・ベッド貸与も”「信毎」のトップ記事である。

**　要介護１・２の掃除・調理・買い物などの援助縮小。介護ベッドなどの福祉用具のレンタルも原則自己負担とするよう財務省が求めている。**

**　介護度が軽いうちに支援すれば、現状維持・機能改善が期待できる。自己負担でサービスを利用できない人が心配である。**

**　今から対応策の検討を。**

町長　75歳未満の利用料２割負担も検討されており、社会保障の抑制につながることを不安視している。今後の動向が気になるところである。

健康福祉課長　給付の伸びを抑える議論になっていると思う。

　今は案の段階だが、福祉用具のレンタルが自己負担になった時には対応が必要と考える。

問　来年度から実施する地域支援総合事業の準備状況は。

健康福祉課長　介護保険事業所と連携を取り進めている。

　近日中に単価設定などを説明し、具体的になれば実施計画に盛り込み予算化する。入浴利用などの要望には継続を考えたい。

　サービス利用者の実情に合わせたいが、地域支え合いの構築が課題になっている。準備は進んでいる。

問　今年度始めた「健幸（けんこう）教室」「元気宅配いいじま」の実施状況と評価は。

健康福祉課長　健幸教室は延べ158人が利用。楽しみながらリハビリができ評価が高い。元気宅配いいじまは延べ97人、畑仕事や地域活動へ参加するなど目的を果たしている。一般介護事業として継続したい。

これがないと困る

産廃撤去の見通しは

問　豊岡地籍の産廃不法投棄の現状と撤去の見通しは。

町長　まだ、そのままの状態なので、施主や業者に対して、全量撤去に向けた指導を継続している。

問　10数年前の「信毎」に、与田切川沿いに産廃を埋めたという記事がある。建設廃材とみられる木くずやコンクリート片などが見つかったというもの。

**　現在まで毎年数か所の水質検査を続けていると聞く。腐食による地下水の汚染が心配だが。**

住民税務課長　関係者が死亡、原因者の特定もできなかった。水質検査でも異常がなかった。以降、県が水質検査を行っており、今後も続けていく。

住宅リフォーム活用を

問　住宅リフォーム補助制度の実績は。

町長　昨年まで250件、総事業費５億1329万円、補助金交付額1638万円余。うち昨年は37件。

問　継続の意向はあるか。

町長　現行制度を基本に継続し運用して行く。

〔以上３件質問〕

核のごみ　受け入れ拒否明言を
情報収集で道筋を検討　町長

浜 田　 稔

問　国は原発から出る核のごみの最終処分場探しを始めた。昨年から県内でも市町村への説明会を行っている。町の対応は。
町長　昨年は参加しなかったが閣議決定もあり、今年は情報収集のために参加した。

問　伊那谷は地震断層崖と土石流扇状地で、最終処分場はあり得ない。町の態度があいまいだと、財政的誘惑の余地を残す。
　すみやかに受け入れ拒否を明言し、説明会には不参加を。
町長　政府は年末までに全国の科学的有望地を示す予定だが、当町が外れることを願っている。
　説明会で情報収集し、上下伊那自治体と連携して道筋を検討したい。

問　環境省は放射性廃棄物を、公共事業の盛り土などに再利用する方針を正式決定した。福島の原発事故前の100ベクレル/kg基準を8000ベクレル/kgまで緩めたものだ。
　宮田の最終処分場よりさらに危険で、コストで誘導し公共事業の条件にされかねない。町内全域を受け入れ拒否とすべきだ。
町長　放射性廃棄物は受け入れがたく、人道的問題もあるので今後方向性を示したい。
　環境保全条例で位置づけるなどの見直しも研究したい。

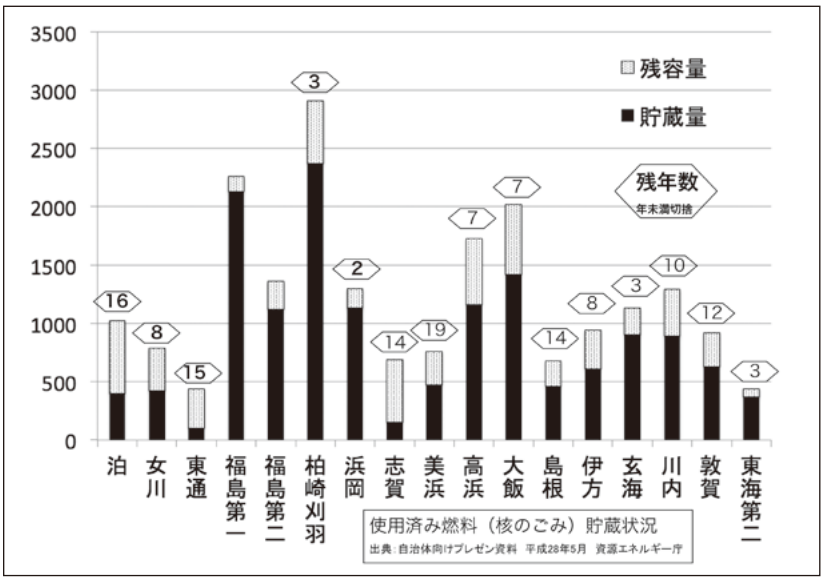
環境問題に迅速な対応を

問　産廃の不法投棄への対応が悪く深刻な事態を招いた事例がある。瀬戸内海の豊島（てしま）が全国的に有名だ。香川県職員が不法投棄業者に抜け穴のアドバイスまで行い、海産物の豊かな島が1975年以来90万トンのごみで埋め尽くされ、未だに除去作業が続いている。
　これを他山の石として、町内の環境問題にも行政の迅速な対応を求めたい。広く環境規制を扱う条例改正の進捗は。
住民税務課長　条例改正の検討はスピードに欠けている面があった。上位法令や近隣の動向、専門家に意見を求め、研究を進めている。メガソーラなどの規制を見直し、事業者への指導助言を行う。放射性廃棄物や水資源は、年度末までに規則と条例の改正を行う。

先端技術の育成支援を

問　町内企業の中には優れた技術開発の事例もあるが、まだ点在していて連携した流れになっていない。全国規模の展示会への出展や視察を助成して、他流試合の機会拡大を。
町長　日本はITやAIで世界に挑むべきで、町の工業振興の方向も技術を磨き生かすべきだ。
産業振興課長　展示会への出展助成は昨年より20万円強化した。新技術の調査や研究開発支援は、商工会と相談しながら施策を定めたい。

〔以上３件質問〕



満杯近い核のゴミ

橋場 みどり

災害時情報

確実な伝達方法は

多様な手段・媒体で

町長

問　岩手県の台風災害では、停電のため避難勧告・指示が届かず、亡くなった人が増えた。町が定める伝達方法・手段は何か。

町長　全住民へ迅速に届くよう多様な手段・媒体により、住民に呼びかける。

総務課長　防災行政無線・ＣＥＫの音声告知端末放送が手段の柱になる。町のHPや「いいちゃんメール」・ＮＴＴなどの「緊急エリアメール」からも発信する。

本年度から開始の長野県防災情報システムに、町が情報入力をすると多数の連携報道機関に即時配信できる仕組みがある。

状況により、公用車・消防団車両による広報も併用する。

問　停電・庁舎崩壊・通信アンテナの損傷で、伝達できない時の方法は何か。

総務課長　役場庁舎の停電では、自家発電機で電源は確保される。庁舎は耐震基準を満たしており、最大震度でも倒壊・崩壊しない。通信アンテナも問題はない。

防災無線が使えない場合は、職員が人海戦術で伝達する。

問　スマホ・CATVなどはそれぞれ特性がある。天候・状況に応じた対応はできるのか。

総務課長　それぞれの弱点がある。複数の手段で情報提供しているので、何らかの媒体から情報把握をお願いしたい。

とにかく生きろ

問　町のＨＰへ提供される情報の内容は何か。

総務課長　HPで緊急事項を赤表示で知らせ、災害の時間経過に従い必要な情報を提供する。

問　スマホ・パソコンを使えない人達への伝達はどうするか。

総務課長　防災行政無線・音声告知端末の音声放送を主体とし、TV・ラジオから取得してもらう。高齢者世帯は、隣近所の声掛けが最も頼りになる。地域密着ボランティアの協力も不可欠。

問　行政内部・部署間の応援対策はどうか。

総務課長　職員は、初動マニュアルに基づき行動。発災時期や時間、被害の状況により最低限の部編成も想定している。

問　情報収集・伝達に自主防災組織や住民の人材活用は。

総務課長　安否情報・被災情報の多くは自治会の自主防災会が収集。住民個人からもある。

問　防災・災害時にスマホを使った情報収集を提案する。

総務課長　情報収集と情報発信は、行政だけでは不十分。

自主防災組織による収集や、SNSの積極的な活用を検討していく。

保育園の駐車場を広く

問　飯島保育園の駐車場が狭く、送迎時や雨の日は混雑している。広くならないか。

教育長　混雑は降園の時間帯。保護者と相談し、園内の一方通行・年齢により時間をずらすなどで対応している。駐車場を広くするには、交通安全面で危険が生じる可能性がある。現在広くするのは難しい。

〔以上２件質問〕

旧紅葉園

処分と活用は
事業希望者へ売却したい　町長

折 山　誠

問　昨年9月定例会で、町民の悲願であった旧紅葉園取得予算補正が提出され、全会一致で可決された。取得価格が3800万円余という高額なものでありながら、その後の様子が何も伝わってこない。

　施設取得後の取り組みと成果を問う。

町長　昨年10月に町の所有となった。この２月から３月にかけ活用希望者を募集したが、契約に至っていない。

　４月以降は、ホテル関係者や観光事業者から複数の提案が寄せられており、内容の検討や先方との調整を行っている。

問　今後の計画と展望は。

町長　観光計画策定や千人塚公園一帯の観光振興を見据え、入札基準の策定・審査機関の整備・入札公告の準備を行う。

　その後、できるだけ速やかに提案型入札による施設の払い下げを行いたい。

問　活用を民間力に期待するのであれば、大胆な立ち上げ支援が必要と考えるが。

副町長　入札が不調となれば賃貸とし、賃貸料など最大限の支援を行う。町が直営するという選択肢はない。

取得した旧紅葉園

道の駅へ行政窓口開設を

問　『二つの道の駅に保健師・栄養士の相談窓口があれば、住民も気軽に利用でき、道の駅の魅力も増す』という町民の声がある。曜日や時間帯を限定して駐在し、徐々に定住促進・福祉など総合窓口化へすすめることを提案する。

　行政運営の方向性として、次期総合計画などで検討することを求めるが。

健康福祉課長　「重点道の駅」のコンセプトに合致する。長期的展望の中で検討する。

与田切公園のディーゼル機関車活用を

問　中央アルプスとその山麓・与田切渓谷や千人塚は、国定公園化やジオパーク認定の広域的な取り組みがはじまった。水の駅構想も中期総合計画に組み込まれ、町観光資源としての期待が高まっている。

　そこで園内に展示してある機関車が動くのであれば、坊主平から公園までの往復運転など、夢のある話につながるが。

産業振興課長　私がエンジンを見た限り修理は困難だ。

〔以上３件質問〕

堀内 克美

集落環境保全

地元同意の義務付けを
法律を精査し検討

町長

問　現在の飯島町の景観・生活環境をどう見ているか。

町長　自然環境と共生し、二つのアルプスに囲まれた誰にでも誇れる町である。

問　地域の環境を守るためには、開発計画の事前の情報が必要。

さわやか環境保全条例など、届け出には地元同意の義務付けを。

町長　現行の規制が基準であるが、法律などを精査し検討を行う。

バイパス4号橋下

問　伊南バイパス４号橋下は、橋から出る朝日と橋に沈む夕日を拝むところとなる。

また、町の野球場・工業団地は、景観や環境の悪化が懸念される。

廃棄物の不法投棄や悪徳業者が入り込みやすい。

どのように環境を守るか。

町長　交通量の減少などにより、人の目が届かない条件不利地域があるとすれば、地元の意見を聞き対応を考える。

問　景観保護条例の制定が予定されているが、何を守るのか。

町長　現在の、特徴ある自然景観を守る。

建設水道課長　建築物・工作物・開発行為について、高さ・色・敷地の緑化など、景観を守るための条例としたい。

問　北河原耕地では、産業廃棄物収集運搬業者が用地を取得し、関連する事業を計画している。

通学路に隣接しており、子どもの安全が懸念される。

現在は仮置き場だが、将来産業廃棄物処理を行うのではないかとの心配がある。

情報が遅く対応に苦慮している。

さわやか環境保全条例で規制できないか。

住民税務課長　用地から出る排水が著しく悪いことなどの状況が生じれば検討する。

問　このようなことは、どこの耕地・自治会でも起きうる問題だ。町独自の規制を求めるが。

町長　環境も景観も悩ましい問題である。

現在さわやか環境保全条例の見直しを行っている。

町独特の条例化を進めたい。

この他、耕地・自治会加入条例制定について質問。

〔以上２件質問〕

基本構想期間

10年を8年にしては研究したい　町長

坂本 紀子

問　多治見市は、市長提案で基本構想期間を10年から８年にし、市政基本条例に盛り込んだ。現在の経済・政治の変化は速く、町長任期の４年も考慮し短縮を検討すべきでは。

町長　理事者任期は４年であり、関連付けることには無理がある。

　基本構想は、町民の意見を聞きながら作った町民の計画であり、理事者の任期に関係して構想を組み立てるのは、いかがかと思う。しかし、期間10年が適当かどうかは、次期策定の折に研究したい。

企画政策課長　基本構想は前期と後期の５年に区分し、その下に財政計画を伴う３年の実施計画がある。さらに管理・関連計画がある。これらへの影響も踏まえ、再度検討したい。

問　町長が就任した時すでに後期計画は出来ていた。マニフェストと計画は整合しているか。

町長　私のマニフェストは総合計画で網羅されており、実現するための具体的な施策を表現したもので、整合がある。

問　マニフェストに「グローバルな人材育成の海外留学支援」とある。どう取り組むのか。

町長　任期中に形になればと思う。様々な立場の人が海外へ出て勉強する機会を作りたい。

事務事業評価を効率的なものへ

問　決算では261事業を職員自ら評価し、冊子にしている。これを行政報告書の中に組み込み、見やすい形式にしては。

企画政策課長　行政報告書と評価書を合わせると大幅にページが増える。

　報告書は効率的で分かりやすい方が良い。研究したい。

問　外部評価の現状は。

企画政策課長　平成26年に試行をスタート。基本構想審議会で、事業コードを選び担当者から話しを聞き評価した。昨年は反省を踏まえ、委員をグループに分けて話し合う中で評価した。本年は議会に報告・公表できるようにしたい。

問　試行の中、出された意見に今後のヒントがたくさんある。

　外部評価を住民自身がすることで、町をよく知り自治意識も高まり、改革も進む。多くの人に関わってもらう事が必要だが。

企画政策課長　基本構想審議会の委員に評価してもらう。

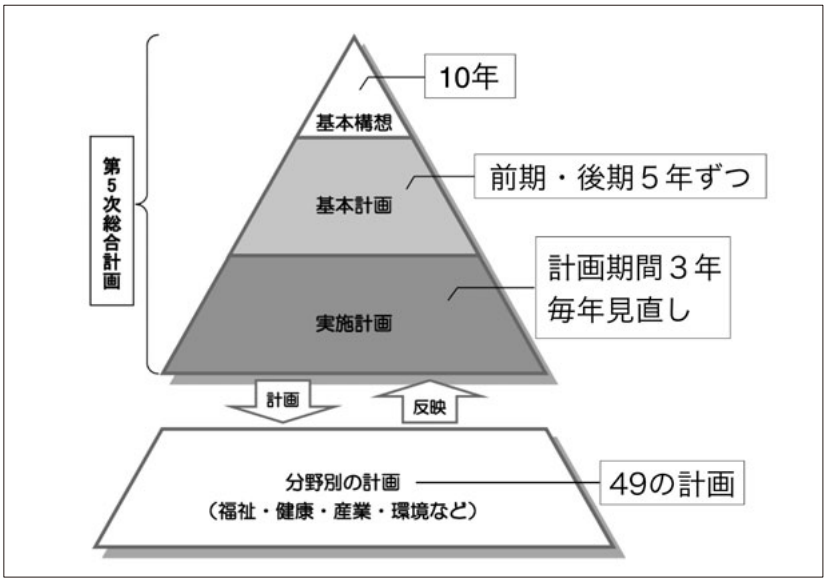
　その場の意見は、次期計画に反映できる。当町のベストの方法を研究したい。

個別計画は検討され生かされているか

問　個別計画はいくつあるのか。事務量軽減のため、整理し減らすべきでは。

企画政策課長　全体で49ある。簡素で効率的な行政をめざし、精査していきたい。

〔以上３件質問〕



総合計画体系図

町民の声を議会へ

このページは町民の皆さんに取材協力をお願いし、町政や議会への意見や感想を掲載しています。

今回は「七姫會」の那須野由紀子さんに登場していただきます。

七姫會（ななひめかい）

２年前に「住んでみたいトコロに住んでみた」と言うテレビ東京の番組で、つまみ枝豆・江口ともみ夫妻が飯島町に住み、飯島町のイイ所を紹介する中で、「七姫會」を取り上げてもらい放送されたのですが、皆さん覚えていますか？

七久保を少しでも盛り上げるためにと、新田自治会の加藤工房さんの所で立派な神輿が出来上がり、５年前から活動が始まりました。

「サイ（祭）！サイ（祭）！」と掛け声をかけて、息を合わせ担ぐのは『気持ちい～いですよ』。

最初は「３社合同祭」でデビューし、今では与田切公園の「桜まつり」・「行燈市」に呼んでもらい、千人塚の「水中花火を楽しむ会」・「七久保文化祭」の盛り上げにも、一役もらえるようになりました。

「七姫會」は、七久保の「姫」の集まりです。家庭の事情・子供の行事など、人手の足らない時が多々あり、毎回人手集めに一番苦労をしています。それでも何とか都合をつけて、会のためにと集まってくれています。

今まで続けてこられたのは、七久保のためという思いの炎が「七姫會」の人たちの心の中で燃え続けているからだと思います。最近のイベントでは、どうしても人数が足らない時は、見物に来た人を巻き込み、楽しんでもらいます。

粋な女神輿（おんなみこし）

あつまれ「姫」！！

まず見て興味を持ち、担いでもらうと神輿の魅力がわかります。是非！一緒に担いで下さい。募集しています。

いずれは町を代表する、粋な女性神輿に成長できたらいいなと思っています。

飯島町も楽しい町になりますよ。楽しく住みませんか。

待ってます！　心意気！

町と議会に望むこと

町では耕地・自治会・団体がお祭りを行っています。人口減少でお祭りをする側も、スタッフの確保が難しいです。

皆がひとつになり、協力できることは協力して、町全体で盛り上がるようにしてもらえたら嬉しいです。

議会だより　クイズ

問題　表紙の写真は○○地区

ヒントなし　**正解者５名様にいいちゃん商品券進呈**

（締切は11/30、発表は発送をもって代えさせていただきます）

応募要領　住所・氏名・年齢・解答とご意見などをご記入のうえ**ハガキ・FAX・いいちゃんポスト**で、**飯島町議会事務局　議会だよりクイズ係宛**まで

編集後記

今回から請願・陳情のレイアウトを変えました。ご意見をお寄せください。

発行責任者　議長　松下寿雄
編集委員　◎浜田　○橋場
本多・滝本・折山・竹沢

あなたの声を議会だよりに　☎0265(86)3111 内線230 FAX.86-4395　e-mail gikai@town.iijima.lg.jp

いいじままち議会だより　第75号　発行・飯島町議会　〒399－3797 長野県上伊那郡飯島町飯島2537番地　編集・議会広報委員会　印刷・㈱宮澤印刷